|  |
| --- |
| 会　議　録 |
| ■会議名 | 令和６年度第２回淡路市子ども・子育て会議(第29回会議) |
| ■日時 | 日時: 令和6年8月28日(水)午後１時30分～ |
| ■場　　所 | 津名ふれあいセンター2階　会議室3・4 |
| ■進　　行 | １.開会あいさつ２.協議事項（１）次期計画に向けたニーズ量の試算値及び確保策(案)について３.報告事項（１）令和６年度子育てハンドブックについて４.その他（１）次回　淡路市子ども・子育て会議(第30回)の開催について５.閉会 |
| ■協議内容 | ２.協議事項（１）次期計画に向けたニーズ量の試算値及び確保策(案)について〇事務局説明〇質疑伊木会長　いかがでしょうか。委員　出生数のグラフについて、令和４年に増えた理由は? また、２号認定の「教育希望」とは何か。児童育成支援拠点事業、親子関係形成支援事業とは?事務局　　増えた理由はわからない。コロナ禍による生み控えかと思う。令和５年に減ったのは、カップルが少なかったためと思う。委員　移住の関係ではないか。助産院ができた。事務局　　助産院の影響もあると思うが、それだけでは結びつかない。委員　市としてもコロナではないか、と言うことか。委員　２号で教育希望の場合は?事務局　　３歳で保育園・保育所でも教育的な内容を実施している。委員　保育希望のほうでやっていると。事務局　　児童育成支援拠点は子供の居場所を作ってあげる。事業所にとっては食事のサポートなども必要でハードルが高い。今後検討しないといけない。教育担当課とも連携する。学校から直接その居場所に行けず、一旦帰宅しないといけないというハードルもある。委員　教育委員会とも話さないといけないと。引きこもりについては?事務局　　引きこもりも関係があり検討段階である。親子関係形成支援事業は、虐待した親同士でグループワークを行い、体験をお互いに話すことで悩みを解消する。委員　親子関係がなぜ壊れたのかと。事務局　　子どもに虐待したことを自覚するところから始める。躾と思っている親もいる。委員　本人(当事者)ばかりでは修正できないのでは?事務局　　話し合いの中で自分だけではないと孤立感を解消する。ハードルが高いものになる。会長　ネーミングも大事。「教室」など軽くてはどうか。虐待している親を集めるよりも、予防策として考えたらどうか。事務局　　これは事業名なので、募集の際、名称は変えることができる。副会長　マザーグループとか。伊木会長　グループが良いか、個別でやるか。事務局　　導入部分は躾、子育てに悩んでいる親を対象とするなど。伊木会長　遊びの教室から始めるとか。事務局　　子育て学習センターも繋がっている。伊木会長　子育て学習センター機能が拡大されるのかと思った。他にどうでしょうか。委員　産後ケアをしていると言うが、していないのではないか。福井では自宅でオイルマッサージ、整体の助成券などあった。淡路では受けた記憶がない。事務局　　健康増進課でやっている。委員　まだ全員が受けられるようになっていない。市内４か所で実施。去年から広まってきたが、まだ受け皿が整っていない。県は、将来的には妊婦のチケットと同じようにする予定。委員　口コミですか。委員　訪問の際に必要な人に勧めている。県立あわじ医療センターは利用者に言っている。事務局　　宿泊型はいくらとか必要な人には届けている。受け皿が増えていけば。子育てハンドブックの17頁に記載している。副会長　妻も地元で選んで産後ケアを受けたが、その内容とここに書かれていることにギッャプがある。委員　病院と違うところがある。事務局　　　淡路市にいなくても使えるとか。委員　雨の日、土日の遊び場が少ない。島外に行くとコストがかかる。経済的に苦しい人もいる。土日、平日遊べる場が増えたらと思う。出かけるにもお金がかかるので子供は２人まででいいかなと思う。神戸は施設が充実している。淡路は暑さや雨で公園に行けない。家でストレスがたまる。伊木会長　以前からずっと課題。事務局　　神戸レベルは難しい。まちづくりの基本から考える必要がある。東浦で土曜日に学習センターを開けたことがあったが利用がなかったので閉じた。津名は年間半分ぐらい土曜日開設している。人の配置も考える必要がある。伊木会長　永遠の課題のような気がする。(淡路島ファミリーサポートセンター)まあるくさんや子育て学習センターなど今あるものを利用していくのが良いと思う。事務局　　いまある資源のなかでやっていきたい。伊木会長　各地区にあるので拡充していったらどうか。委員　他力本願の気がする。保育所に預けたら母親の話し合う場がないので、志筑公民館をお母さんが代表で使って話し合う場ができた。自分たちがグループを作ってやる。アンケートの自由記載の意見も書くだけではなくて、実際に活用していったらいいと思う。委員　私も賛成です。委員　自由記載は貴重な意見。伊木会長　自由記載をどう返すか。お母さんたちが主体的に検証していったらどうか。関さん、小堀委員がサポートに入ってはどうか。委員　病後児は、お金がかかる。６割が赤字続き。30施設ぐらいある。必要性はある。コロナで感染症に対する認識が変わった。伊木会長　病児の手続きが煩雑だと聞いている。委員　一回登録して体験しないと利用できない。事前にお試しして預けるというのはどうかと思う。急な対応は無理と言われると。事務局　　事前登録は、アレルギーとか特性とかをチェックするために必要。お試しの預けは必要ないと思う。委員　一時保育は?事務局　　一時保育も事前に利用する必要はない。病後児も事前予約で埋まっていなければ急な申し込みにも対応する。伊木会長　数字のほうとか。委員　子どもが手足口病になり、ご飯が食べられないので保育所で預かれないと言われた。そのため仕事を長期間休んだ。病後児保育の預ける基準は何か。一時保育の時も、この日とこの日から選んでと言われた。預けたいときに預けられなかった。軽い症状で預けられるのか。登録が面倒なので結局仕事を休まないといけない。周囲の人も全然知らないと思う。面倒だから使わないという状況。委員　このような場合に預けられる、と具体的な例を示してはどうか。伊木会長　紙面上?委員　具体的な例をあげてもらったほうがいい。事務局　　状態は個々に違うので、具体例をすべて上げることはできない。小児科の先生に指示書を出してもらう必要がある。委員　そういうのであれば書けると思う。事務局　　全部は難しいのでは。インフルエンザの場合は明確で、熱が下がって三日間なら病後児。委員　手足口病は、状態が良くなったら行っていい。食べられなければ病後児保育。具体例は挙げたほうが良いと思う。伊木会長　病児病後児についてはもう少し充実されるほうが良いと。その辺についてどうですか。委員　４時以降の保育についてご意見があったので、４月から５時まで預かる際、ビデオを見ないで過ごす。委員　出生数が減っているのが気になる。外国人の妊婦が多く、去年7人ぐらいいたがいずれ転出する。実習生がなかなか大変で関わりが難しい。最近はベトナム人が転入してくるが、英語が通じない。翻訳してやっている。住民票はあるのでサービスは受けられる。伊木会長　日本語だから。事務局　　スマホの翻訳アプリで対応している。委員　全部アプリで対応。伊木会長　300人を切ったなと。このままこの推移なのかなと。少子化のほうは?事務局　　国でもいろいろやっている。デリケートな部分もある。生む生まないはカップルが決めること。支援事業が毎年増えていっているが、もっと根本的に経済的に将来の生活が大丈夫だ、と安心できないといけない。伊木会長　他には。数字的なところについてはどうでしょうか。委員　あまりわからない。伊木会長　みなさんの回答をまとめて具体的なものになると思う。事務局　　今日の議題ではないが、計画の骨子案を作る。アンケート調査のご意見をそのまま反映はできないが、学童保育の時間延長など検討している。できるところから計画に反映していく。伊木会長　自由記載に対する回答は。事務局　　主なものについて回答は可能。副会長　全部書いてもらったほうが。事務局　　報告の構成をどうするか。委員　いい意見があるんやなとわかった。伊木会長　自由記載によってどう前向きに考えていくか。保護者が行政と一緒にやっていく感覚になれば。少しテーマごとに整理してはどうか。事務局　　カテゴリーでまとめてはいるが。コンサル　まとめてしまうと多い少ないがわからなくなる。生の声のままのほうが良いと思う。事務局　　そのまま載せると特定されるケースもあり、プライバシーの問題も。伊木会長　ここに載せるのとはまた別の活用方法がないかと思う。委員　グループの会で具体的なものは省いて説明する。年に何回か、保育園代表者などに説明して代表者が保護者に伝えるのはどうか。事務局　　そういった役割は、本来は市議の役割ではないかと思う。委員　行政のほうで意見の交換会をやってはどうか。事務局　　市長も市政報告で回っている。伊木会長　お母さんたちが集まって、座談会のイメージ。委員　座談会かグループで。その結果を載せては。事務局　　今回はスケジュール的に難しい。いざ手を挙げてと言っても手を上げない可能性がある。こちらからお願いするとなると趣旨が違ってくる。委員　何人集まったら開催しますでもいい。会をするために考えてもらったら。事務局　　「まあるく」でこういう会あるからどうと。公募するとか。委員　集まりがあれば説明していただけるのか。事務局　　はい。委員　　自由記載のご意見の何かひとつでも具体的に進歩すればといいと思う。事務局　　今回の貴重な自由記載について、まとめ方はご相談させていただいて計画に入れさせていただく。計画をもって説明しながら次のステップに向けて行く。概要版も作るので直接話をする場は設けていきたい。社会資源を増やすのは大事、行政だけではできない。伊木会長　計画策定のプロセスでは厳しいが、宙に浮くわけではないと。事務局　　はい。伊木会長　計画とは別で今後に生かしていくということで。副会長　資料として残しておけば。これから変わっていく中で、できるだけ多くの意見を残してもらったら。書いてよかったと思えるものにしてほしい。伊木会長　大切に温めていただくということで。３.報告事項（１）令和６年度子育てハンドブックについて〇事務局説明〇質疑委員　21頁でふれあいセンターで見てくれると勘違いするのではないか。救急診療。診ているのは5時。ふれあいセンターも受付時間30分前までも強調しては。委員　書き方を揃えれば。受付時間。事務局　　表記を揃えます。委員　30頁の予防接種について、最初のほうに持ってきたらいいのでは。シルガードしかやっていない。次年度から。事務局　　次年度の掲載内容で修正していく。委員　45頁、病後児保育の説明の位置を変えてはどうか。委員　保育園以外は配っていない?小学生も該当するのでは。副会長　小学生も対象ですよね。事務局　　発行部数について検討する。児童一人ひとりには配っていない。学童に通っているこどもを対象としては配っていない。副会長　学童に通っていない子に必要なのではないか。事務局　　学校に協力をお願いすれば可能。委員　家庭(世帯)の数でよいのでは。学校にまかせればいい。伊木会長　電子ブックもあるので。事務局　　親御さんたちにはＱＲコードで。冊子を希望する人には配れます。伊木会長　他に無ければ。４　その他次回の会議は11月を予定。５.閉会 |